

関係各研究機関の長

国立大学法人東京大学地震研究所

所長 小屋口 剛博

平成26年度共同利用 地震火山災害軽減研究の公募について（通知）

このことについて、下記のとおり公募しますので貴機関の研究者にこの旨周知くださるようお願いいたします。

記

1. 公募事項（公募要領を参照）

(1) 共同研究

2. 申請資格： 国立大学法人、公、私立大学及び国、公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じる者。
3. 申請方法： 共同利用HP (<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/>)にある「所定の様式」に必要な事項を記載の上、Web申請してください。
4. 研究期間： 研究期間は、平成26年採択日から平成27年3月までとする。
5. 審査の方針： 本研究所共同利用委員会では提出された申請書を審査し採否を決定します。研究計画の内容が各種共同利用の趣旨に沿っていることが重要です。
6. 申請期限： 平成26年3月20日（木）【厳守】
7. 承諾書の提出： 上記締め切り後2週間以内に所属機関長等の承諾書（様式11）を下記住所まで郵送願います。（異動等があった場合は、新しい所属機関長の承諾書を速やかに再提出してください。）
〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1東京大学地震研究所研究支援チーム（共同利用担当）
8. 採否の決定： 共同利用の採否は、本研究所共同利用委員会が決定します。採否の決定は、平成26年6月末までに行われ、審査結果を課題代表者及び研究代表者あて通知する予定です。
9. 所要経費： 共同利用に必要な経費及び旅費は、予算の範囲内において地震研究所が支出します。
10. 報告書： 全ての共同利用者※は、研究期間終了後30日以内に共同利用実施報告書をWebシステムにて提出していただきます。
（※特定共同研究の場合は「課題代表者」、地震・火山噴火の解明と予測に関する公募研究の場合は「研究代表者」）
11. 謝辞等の記載： 本研究所の共同利用で行われた研究に関する論文を发表する場合は、謝辞に地震研究所共同利用を利用した旨の文章を入れ、その別刷を提出していただきます。
12. 宿泊施設： 本研究所には宿泊施設がありませんので、各自用意してください。
13. 注意事項： (1) 施設等の利用にあたっては、本研究所の規程、その他関係法令を遵守するとともに、管理・安全のために発する所長の指示に従っていただきます。
(2) 予算の執行、研究の実施、設備の利用については、担当教員と十分に連絡を取り、かつ、関係する教員の指示に従ってください。
(3) 本学以外の共同利用者が研究を遂行する際に受けた損失、損害に関しては、原則として各所属機関で対応するものとし、本学は一切の責任を負いません。また学生が共同研究に参画される場合は、(財)日本国際教員支援協会の損害保険「学生教育研究災害障害保険（学災教）」等に参加してください。（証明書等の提出は不要）

- (4) 本共同利用によって知的財産を創出した場合は、出願等を行う前に対応教員及び研究分担者にご連絡ください。併せて、所属機関の知財担当部署への連絡もお願いいたします。権利の持ち分、出願手続き等については協議の上、決定いたします。
- (5) この他、公募に関するお問い合わせは研究支援チーム(共同利用担当)へお願いします。

【問い合わせ先】

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所研究支援チーム（共同利用担当）

電話：03-5841-5710、1769

FAX：03-5689-4467

E-mail：k-kyodoriyo@eri.u-tokyo.ac.jp

公 募 要 領

地震研究所においては、全国の地震・火山の関連分野の研究遂行に資するため、各種共同利用が設けられており、今回下記の２種類の共同研究の募集を致します。

以下の記載事項をご参照のうえ、期日までに共同利用HP

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/info.html>

よりWeb申請されるようお願いいたします。本公募要領をはじめ・各種様式は上記URLに掲載してあります。

なお、特定共同研究に参加申請される場合は、事前に必ず利用される研究室等の教員と打ち合わせの上、申請してください。

共同研究

(1) 特定共同研究 (A-01) :

地震研究所あるいは関係機関が全国規模で実施している、「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画の推進について(建議)」(以下、「地震火山災害軽減研究」)に基づいて計画的に推進する各共同研究プロジェクト(別表A-1)への共同研究に参加するための経費を補助します。

対象を、「地震火山災害軽減研究」の事業費の配分を受けていない研究機関に所属する研究者とし、各課題研究に参加するための旅費を補助します。地震火山災害軽減研究の個々の研究課題、研究内容、研究計画、研究代表者は、以下のWebページをご覧ください。

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/H26/project.html>

参加希望者は、参加希望の研究課題代表者と連絡を取り、課題代表者と共同で申請書(様式1-1)を提出してください。各課題の研究代表者は、報告書(様式16-1)を提出してください。

(2) 地震・火山噴火の解明と予測に関する公募研究 :

地震火山災害軽減研究のうち、項目「1. 地震・火山現象の解明のための研究」、もしくは「2. 地震・火山噴火の予測のための研究」の内容で、別表A-1にない、新たな研究課題を公募するものです。研究期間は1年ですが、次年度以降においては年度ごとに、申請、採択を受けた上で最長3年まで継続が可能です。1課題当たりの研究費の上限を1年につき100万円程度とします。なお、費目は旅費、共同研究費(消耗品・役務・謝金等)とします。申請書に建議のどの研究項目に対応するか記載してください(例:1.(2)イ プレート境界巨大地震)。(項目「3. 地震・火山噴火の災害誘因予測のための研究」の内容に関する公募研究は別に行う予定です。)

地震火山災害軽減研究の実施内容については以下のURLをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu6/toushin/attach/1341570.htm

地震・火山噴火予知研究協議会の審査に基づき、地震研究所共同利用委員会が採否を決定します。採択された課題については、地震火山噴火予知研究推進センターの教員が所内担当教員となります。研究代表者は申請書(様式15)を提出してください。

なお、研究代表者には、毎年度末に成果報告書(様式16-4)を提出していただきます。また、地震・火山噴火予知研究協議会の定める様式の報告書の提出が必要であり、毎年3月に開催される成果報告会での発表をお願いします。

※すべての共同利用研究採択者には、特定共同研究(A-01)と地震・火山噴火の解明と予測に関する公募研究では地震研究所を共同利用研究所として利用した旨の謝辞の記載を、publicationに求め、その別刷の提出を義務といたします。

別表 A-1 災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画 研究課題・研究代表者一覧

個々の研究内容、研究計画は、右記の Web ページをご覧ください。 <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/H26/project.html>

整理番号	代表機関名	課題代表者	研究課題名
1. 地震・火山現象の解明のための研究			
(1) 地震・火山現象に関する史料、考古データ、地質データ等の収集と整理			
1401	東大地震研	佐竹健治	地震・火山災害の関連史資料に基づく低頻度大規模災害の調査
1801	京大防災研	加納靖之	史料の収集・翻刻・解析による過去の大地震および自然災害の調査
2601	奈良文化財研究所	山崎健	考古資料および文献史料からみた過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベースの構築・公開
2702	新潟大災害・復興 科学研究所	矢田俊文	日本海沿岸地域を中心とした地震・火山噴火災害関連史料の収集と分析
2801	東大史料編纂所	佐藤孝之	文献史料による歴史地震に関する情報の収集とデータベースの構築・公開
(2) 低頻度大規模地震・火山現象の解明			
1001	北大理	中川光弘	地質および物質科学的データに基づく低頻度大規模火山現象およびその準備過程の研究
1002	北大理	谷岡勇市郎	北海道沖低頻度大規模地震の総合的理解とそのモニタリングへの基礎的研究
1406	東大地震研	篠原雅尚	日本海溝・相模トラフプレート境界で起こる多様なすべり現象の包括的モデル構築
1701	名大環境	山中佳子	古文書解読による南海トラフ巨大歴史地震像の解明
1802	京大防災研	岩田知孝	プレート境界巨大地震の広帯域震源過程に関する研究
1803	京大防災研	中道治久	近代観測以降の大噴火時の観測データの整理と低頻度大規模噴火予知に寄与する情報の抽出
(3) 地震・火山噴火の発生場の解明			
1101	弘前大理工	小菅正裕	地殻流体と地震活動の関係及び過去地震の災害誘因の解明
1201	東北大理	中島淳一	スラブ内地震の発生メカニズムの解明
1202	東北大理	三浦哲	蔵王山周辺の総合観測
1203	東北大理	松澤暢	地殻応答による断層への応力载荷過程の解明と予測
1404	東大地震研	安田敦	揮発性成分定量による活火山爆發力ポテンシャル評価とマグマ溜まり深度の再決定
1407	東大地震研	飯高隆	内陸地震発生の理解と予測に向けて
1408	東大地震研	岩崎貴哉	日本列島基本構造モデルの構築
1409	東大地震研	新谷昌人	小型絶対重力計を用いた火山監視技術の開発
1430	東大地震研	望月公廣	日・米・NZ 国際協力によるスロースリップでのプレート境界面断層滑りメカニズムの解明
1501	東大理	角森史昭	地殻流体の連続化学観測にもとづいた地殻の状態評価システムの開発
1601	東工大理	岩森光	日本列島変動の基本場解明：地殻とマントルにおける物性、温度、応力、流動－変形
1804	京大防災研	澁谷拓郎	南海トラフ巨大地震の予測高度化を目指したフィリピン海スラブ周辺域の構造研究
1805	京大防災研	西上欽也	注水実験による内陸地震の震源断層の詳細な構造と回復過程の研究

1806	京大防災研	飯尾能久	横ずれ型の内陸地震発生の物理モデルの構築
2201	九大理	松本聡	地震・火山相互作用下の内陸地震・火山噴火発生場解明およびモデル化の研究
2301	鹿大理	八木原寛	海域と島嶼域における地震・地殻変動観測による南西諸島北部のプレート境界域テクトニクスの観測研究
(4) 地震現象のモデル化			
1204	東北大理	松澤暢	地震断層すべり物理モデルの構築
1411	東大地震研	波多野恭弘	地震活動パラメーターと地震発生場の応力の中に成り立つ定量的関係式
1412	東大地震研	中谷正生	次世代プレート境界地震発生モデル構築のための実験的・理論的研究
1901	京大理	平原和朗	地震サイクルシミュレーションの高度化
(5) 火山現象のモデル化			
1003	北大理	橋本武志	多項目観測に基づく火山熱水系の構造の時空間変化の把握と異常現象の検知
1205	東北大理	中村美千彦	岩石組織に基づく火道浅部プロセスの推定手法の開発
1413	東大地震研	大湊隆雄	地球物理・地球化学統合多項目観測および比較研究によるマグマ噴火を主体とする火山の定量化とモデル化
1602	東工大理	野上健治	水蒸気爆発場の物理・化学状態の把握と火山流体の挙動
1605	東工大理	野上健治	海底火山活動の評価手法の開発に関する研究
1807	京大防災研	井口正人	桜島火山におけるマグマ活動発展過程の研究
1808	京大防災研	大見士朗	焼岳火山の噴火準備過程の研究
1902	京大理	大倉敬宏	阿蘇火山における水蒸気爆発の予測および火山災害軽減のための観測研究
2. 地震・火山現象の予測のための研究			
(1) 地震発生長期評価手法の高度化			
1703	名大環境	鈴木康弘	地表地震断層および活断層の地表形状・変位量データにもとづく直下型大地震の規模・頻度予測手法の高度化 -LiDAR 等の高解像度 DEM を用いた検討
(2) モニタリングによる地震活動予測			
1206	東北大理	遠田晋次	地震活動の時空間パターンと断層および地震サイクルとの関係
1414	東大地震研	五十嵐俊博	相似地震再来特性の理解に基づく地殻活動モニタリング手法の構築
1415	東大地震研	小原一成	プレート境界すべり現象モニタリングに基づくプレート間カップリングの解明
1416	東大地震研	鶴岡弘	地震活動に基づく地震発生予測検証実験
1502	東大理	井出哲	地震発生場の階層性を考慮した地震活動予測
1704	名大環境	山岡耕春	南海トラフ域におけるプレート境界面の力学的特性の把握
1809	京大防災研	西村卓也	短スパン伸縮計等を活用した西南日本における短期的 SSE の観測解析手法の高度化
1903	京大理	宮崎真一	実観測データに基づく断層面摩擦パラメータと地殻活動の状態推定の手法の構築
2401	立命館大総合理工	小笠原宏	南アフリカ金鉱山の地震発生場における応力・強度・歪変化の現位置計測
(3) 先行現象に基づく地震活動予測			
1207	東北大理	長濱裕幸	地震に先行する大気中ラドン濃度変動に関する観測
2402	立命館大総合理工	川方裕則	大規模地震・破壊に先行する極微小な前震活動の発生様式の特徴の解明
2501	東海大海洋研究所	長尾年恭	電磁気的地震先行現象の観測と統計評価による他種の先行現象との比較
(4) 事象系統樹の高度化による火山噴火予測			
1004	北大理	中川光弘	噴火履歴及び観測事例に基づく噴火事象系統樹の試作
1208	東北大理	西村太志	観測事例及び理論予測に基づく噴火事象系統樹の分岐条件の検討

3. 地震・火山噴火の災害誘因予測のための研究			
(1) 地震・火山噴火の災害事例の研究			
1419	東大地震研	佐竹健治	歴史時代に発生した地震・火山などの災害に関する多角的な研究
(2) 地震・火山噴火の災害発生機構の解明			
1420	東大地震研	三宅弘恵	堆積平野・堆積盆地における地震災害発生機構の解明
1705	名大環境	黒田由彦	地震・津波災害に対する地域社会の脆弱性測定に基づくボトムアップ型コミュニティ防災・減災に関する文理融合的研究
2701	新潟大災害・復興 科学研究所	田村圭子	中山間地域における減災科学に係る研究
(3) 地震・火山噴火の災害誘因の事前評価手法の高度化			
1421	東大地震研	古村孝志	広帯域・高解像度強震動シミュレーションに基づく大地震の強震動評価の高度化
1811	京大防災研	関口春子	プレート境界巨大地震等の広帯域強震動予測に関する研究
1812	京大防災研	千木良雅弘	強震動によって発生する地すべり現象の発生ポテンシャル評価と事前予測手法の高度化
(4) 地震・火山噴火の災害誘因の即時予測手法の高度化			
1005	北大理	谷岡勇市郎	津波浸水域の即時予測手法開発のための研究
1209	東北大理	太田雄策	トランジェント現象リアルタイムモニタリングのための複合測地データ利用の高度化
1813	京大防災研	井口正人	桜島火山におけるマグマ活動発展過程の研究ー火山灰拡散即時予測
(5) 地震・火山噴火の災害軽減のための情報の高度化			
1006	北大理	谷岡勇市郎	地理空間情報の総合的活用による災害に対する社会的脆弱性克服のための基礎研究
1422	東大地震研	額額一起	地震動・津波誘因の長期予測情報コミュニケーション
1814	京大防災研	井口正人	桜島火山におけるマグマ活動発展過程の研究ー地域との連携
2002	鳥取大工	香川敬生	自治体震度計を用いた地震速報の高度化
4. 研究を推進するための体制の整備			
(2) 研究基盤の開発・整備			
1007	北大理	高橋浩晃	地殻変動等多項目観測データ全国リアルタイム流通一元化解析システムの開発
1008	北大理	村上亮	Lバンド航空機 SAR による革新的火山観測手法の開発
1210	東北大理	木戸元之	海溝軸での海底地殻変動観測技術の開発
1423	東大地震研	卜部卓	データ流通網の高度化
1424	東大地震研	鶴岡弘	研究成果共有システムの構築
1425	東大地震研	塩原肇	海底での地震・地殻変動観測に向けた観測技術の高度化
1426	東大地震研	新谷昌人	光技術を利用した大深度ボアホール用地震地殻変動観測装置の開発
1427	東大地震研	田中宏幸	素粒子ミュオンを用いた火山透視技術の可用化プロジェクト
1428	東大地震研	金子隆之	衛星赤外線像による噴火推移の観測と類型化に関する研究
1503	東大理	森俊哉	噴火推移モニタリングのための火山ガス観測装置の開発
1706	名大環境	山岡耕春	精密制御震源システムの標準化と、ボアホール・海域への設置に関する研究
1816	京大防災研	飯尾能久	歴史記録の電子化
(5) 社会との共通理解の醸成と災害教育			
1009	北大理	大島弘光	準リアルタイム火山情報表示システムの開発



**国立大学法人 東京大学 地震研究所
事務部 研究支援チーム(共同利用担当)**

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

電話:03-5841-5710

FAX:03-5689-4467

E-mail:k-kyodoriyo@eri.u-tokyo.ac.jp